

令和8年度 第1回浦安市郷土博物館協議会議事録

1 開催日時 令和8年8月4日（火） 14時30分～16時30分

2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室

3 出席者

（委員）明保委員長、舘副委員長、大村委員、吉野委員、長谷川委員、渡邊委員

（事務局）教育長、生涯学習部長、郷土博物館長、郷土博物館職員4名

4 議 事

（1）協議事項 浦安市郷土博物館基本的運営方針の策定に向けて

（2）報告事項 ①令和7年度 郷土博物館事業報告

②令和7年度 企画展「浦安の大衆芸能」開催報告

③令和8年度 夏休み企画展「もっと知りたいふるさと浦安」開催案内

（3）視 察 夏休み企画展「もっと知りたいふるさと浦安」

5 会議経過

会議に先立ち、渡邊剛委員の委嘱状の交付を行った。交付後、教育長があいさつを行い、事務局紹介を行った。

引き続き委員長のあいさつと、各委員のあいさつを行った。

6 協議概要

協議事項 浦安市郷土博物館基本的運営方針の策定に向けて

配付資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

（委員）うらやす財団との大衆芸能の事業、図書館との子ども向けの事業など、色々な視点で見ることができ良いと感じる。これからも様々な団体とコラボレーションして行ってほしい。

（委員）博学連携が少ししか触れられていないが、実際は内容の濃い事業を行っていると考えます。

（委員）浦安市郷土博物館基本的運営方針（案）の「3 調査研究」の（2）文中、「学際的に研究を進め」という部分は、少し弱いように感じる。学芸員それぞれの専門など追及してもらい、学会などで発表できるような調査研究も行ってもらいたい。

（事務局）これまで当館は、博学連携事業を中心に、生きた博物館を目指してきた。博学連携事業担当は、学校に合わせた内容で事業を計画し、学芸員も毎年イベント内容を変えながら、工夫をしている。研究については、一人でやるのではなく、大学の先生や様々な方と協力しながら、少しずつ専門性を高めていくことを目指していく。

- (委員) それぞれの専門性を自分たちで打ち出し、アピールすることで、市民の方々に伝わり、博物館に興味を持ってもらえると考える。
- (委員) 博学連携事業は浦安市が誇れる事業である。浦安市の発展について子どもたちが学習できる展示があり、先生たちの教材研究にもなるいい施設だと考える。
- (委員長) 今まで続けてきた4つの基本コンセプトを大事にして、継続しながら、各委員の意見を反映し、基本方針をまとめていただきたい。

報告事項①令和7年度 郷土博物館事業報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 以前は、博学連携事業を通して、博物館に初めて来館した子どもが、保護者と一緒に来館する姿があった。現在はもっと小さいうちから来ていて、カリキュラム内で博物館を活用する学年である小学校3・4年生となる頃には、すでに来たことがある子どもが増えているのか。
- (事務局) 現在、地域のこども園・保育園・幼稚園の活用は多く、土日には保護者とともに来館する姿が多くみられる。また、保護者の口コミが広がるとさらに多くの来館がある。小学校3年生で授業で博物館を活用するときには、すでにほとんどの子どもが来館したことがある状況である。
- (委員長) 体験中の子どもたちの様子はどのような感じか。
- (事務局) 小さい頃から博物館に親しんでいる子どもたちが多い。博物館にきて楽しみ、気付きがあり、博物館で体験するときの目は学校で見せている目とは違うのではないかと感じている。
- (委員) 子どもたちが体験して楽しみ、入館者の増加にもつながっている。子どもたちが体験して行動できるような博物館活動を継続していただきたい。
- (委員) 入館者数などの数字が、どれだけすごいのか分かりづらい。近隣との比較を見ると分かりやすいが、比較の仕方を検討した方が良い。今後、子どもが減るにつれ、絶対数を求めていくのが難しくなっていく。対象人口のうち何パーセントというやり方の方が、指標としては見やすいと考える。
- (委員) 目標の10万人というのは、どのように決めているのか。
- (事務局) 10万人という区切りの良さというところもあるが、開館1年目は14万人の来館があったがその後減少し、10万人を切ることもあった。10万人の10パーセントは、博学連携事業で来ているので、そこで10万人を切るというのは、博学連携で頑張っているのに、一般入館者が減っているということになる。10万人は必ずキープしようという考えで、目安としている。
- (委員長) これからは単純に何人という目標は難しくなる時代が来るかもしれない。これからも市民や子どもたちのための活動を行ってほしい。

報告事項②令和7年度 企画展「浦安の大衆芸能」開催報告

配付資料に基づき、事務局より説明した。

主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) 当時、貧しいながらも本当に豊かな娯楽があったのだなと感じた。浦安は千葉で初めて寄席の認可を受けたり、ローラースケート場など新しいものを早くに取り入れたり、浦安の気風が分かる面白い話が知れた。しんうら寄席では多くの人に来ており、またこういう機会があればいいと、楽しみにしている。
- (委員) 浦安囃子保存会の太鼓も展示してもらった。浦安囃子も、漁師が自転車に太鼓を乗せ、東京都江戸川区の鹿骨に通って習い、浦安に持ってきた。その行動力が、現在の博物館の体験にもつながっていると考える。
- (委員) 芸事好きなまちだと暮らしてみても分かる。西脇いね氏がフラワー通りの様子を描いているが、漁師特有の日々楽しく暮らしていく気風や、粋などが根底にあるのだと感じた。
- (委員) 西脇いね氏の著作が展示され、図書館で初めて読んだが、母親も懐かしんで読み返していた。本も紹介されていてよかった。
- (委員) 西脇いね氏の弟である宇田川敬之助氏にも、たくさん取材されるといいと考える。
- (事務局) 今回、多くの方にご協力いただき、様々な資料の提供を受け、また取材をすることができた。その中でも、講談師の田辺一鶴師匠の浦安にまつわる多くのエピソードについて聞き取りすることができたことは大きな意義があった。
- 残念だったのは、浦安亭に出演していた浪曲師の方が、昨年亡くなり、しんうら寄席への出演が叶わなかったことである。
- 芸達者で芸事好きの人がいたからこそ、今も文化会館や公民館において、サークル活動が盛んに行われており、浦安に脈々と受け継がれてきたということが分かったことが本企画展の成果だと考える。

報告事項③令和8年度 夏休み企画展「もっと知りたいふるさと浦安」開催案内

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

- (委員) (4) 地域団体・ボランティアとのイベントにおいて、浦安囃子保存会のイベントを掲載していないのはなぜか。
- (事務局) 該当の事業は子どものみ参加可能なイベントを対象としているため、大人も参加可能な囃子体験イベントは対象外とし掲載していない。しかし、浦安囃子について、自由研究で取り上げる子どももいるため、自由研究に役立つと宣伝している。今回のイベントの成果は、事業報告に掲載する。
- (委員) 活動の周知の方法はどうなっているか。企画展やイベントなど周知の方法をSNSも含めて教えていただきたい。
- (事務局) 博物館だより、市内小中学生の保護者向けアプリ「キッズビュー」などを活用している。親子船造り体験教室は、キッズビュー配信後に電話予約で定員が埋まる状況で、多くの保護者の方がキッズビューを見ていると思われる。

SNSは運用しておらず、検討段階である。市役所各課がどの程度利用しているか調べたが、Xを利用しているところが多い。

館内でSNSの運用について諮ったところ、性急にすすめるのではなく、どの媒体が博物館の情報発信に適しているのか、市の広報活用などを含め検討していく方がよいとの結論にいたった。

Xは即時性をもって発信でき、ベカ舟などの運行情報を発信しやすい。

Instagramは消防で豆知識を発信しているように、伝統文化の発信に利用できると考える。

ただし、両方に手を付け、配信が止まることのないよう、運用について考える必要がある。

(委員) 協議会内でも今まで議題に上がっている。引き続き検討していただきたい。

(委員) Instagramが博物館に合っていると考え。若い世代は、ホームページまで見に行くことはないが、Instagramをみて博物館に行こうと考える。ホームページは更新に労力もかかり、即時性もないと考える。

(委員) 博物館には動の部分と静の部分があり、うまくバランス取り合う必要がある。現在、動の部分であるイベントや博学連携などは充実している。静の部分である研究を、学芸員が打ち込める時間をつくるべきである。学芸員が浦安にとり価値があり、大切だと感じていることを研究し、やりたいことをやる時間と場所を守りたい。学芸員が研究に打ち込んでいるところを見せることも大事だと思うので応援している。

(事務局) 各学芸員が浦安の中でテーマを見つけ、しっかり市民や子どもに還元できるようにしていく。すべて一人でやろうとせずに他の研究機関等と協力しノウハウを学び、上手に時間を使いながら研究を行っていく。

(委員長) 全体的な話になるが、意見のある方はいるか。

(委員) SNSについては、見ている人からのフィードバックがある仕組みがあるものを選ぶべきだと考える。

報告事項2「企画展『浦安の大衆芸能』開催報告」には、最後に課題が挙げられているが、課題に対してどういう手を打つか、それが分かるようになっている方がよい。もしくは、次回報告でも分かるようにしてほしい。

(事務局) イベントも、毎年同じではなく、反省をいかしながら、課題を解決し行っている。今後は、前年度の報告と、今年度はこうしたという報告を行い、分かりやすく見ていただけるよう資料をつくる。今後、協議会において、基本方針に基づき事業評価をしていただけたらと考えている。課題が出たら、次年度はその点を解決していく、その繰り返しを行っていききたい。

以上をもって、令和8年度第1回浦安市郷土博物館協議会は閉会した。

会議後、企画展「もっと知りたいふるさと浦安」の視察を行った。